



この街が好きだから

武蔵野スケッチ物語

絵と文
大須賀一雄

92

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

桜堤三丁目にて

コロナ禍がようやく遠のき、平穏な日々が戻ってきた感じがする今日この頃ですが、皆さまはいかがお過ごしでしょうか？

ところで先日、今回掲載させていだいた作品を描いている際、通り掛かりの外国人女性が声を掛けてきた。聞くとスイスの方。日本語が上手なので、いつ日本に来られたのかを尋ねると、6年ほど前にやってきたとのこと。それにしては日本語がかなり流ちょうなので驚いてしまった。

実は私も三十代で英検一級に合格し、その後、JR東日本で社長の通訳の仕事などをしていたので、かなり英語を話せる方だが、英語を母国語とする人たちのようには話せないと思っただけ。それでも、普通の会話には事欠かないので、英語を勉強してきてよかったと思う。これまで海外旅行を数十回も経験したが、英語が話せたおかげで、とても助かった。

若い方々も英語が話せると役に立つことが多いので、ぜひ関心がある方は、英語の勉強に挑戦されることをお勧めしたい。

大須賀一雄（おおすかかずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。2022年まで、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、展覧も30回を超える。